

Excellence Porsche **33** 911 GT3 R

2016 AUTOBACS SUPER GT
Race Report

Motegi Rd8

November 13 2016

Naoya Yamano / Jörg Bergmeister

Qualify : 16th (1' 47" 896)

Race : 5th (49 Laps)



怒涛の追い上げを披露し、今シーズン初めての表彰台を獲得した第3戦の決勝レースを終え、Excellence Porsche Team KTRは喜びに沸きつつも、すでに11月13日(日)に開催される第8戦の予選・決勝に向けた準備を進めていた。2位の次に目指すべきは、当然表彰台の頂点。その実力は当然チームにも、Excellence Porscheにもあった。

迎えた13日のツインリンクもてぎは快晴。第3戦は雨が残るウェットコンディションだったが、今日は完全にドライのままの予選となった。第3戦とは異なるドライバーが第8戦の予選を担当しなければならない規則で、この日のアタッカーとなっていたのはヨルグ・ベルグマイスターだ。今回が初めてのもてぎだったが、すでに金曜から走行を重ねており、不安はなかった。

しかし、予期せぬトラブルが起きる。ベルグマイスターはこの日、朝から深刻な体調不良を訴えていたのだ。腸炎のような症状で、急遽メディカルセンターに行き対処してもらうほど。周囲は心配したが、レーシングドライバーはコクピットに座ればすべてを遮断し集中できる男たち。ベルグマイスターもつらい体調を忘れたかのように、午前8時40分からの予選で周回を重ねていった。

ただ、今日の第8戦はドライコンディションだったこともあり、決勝レースを見据えたハードめのタイヤで予選アタックせざるを得なかったこともあってか、タイムは伸び悩んでしまう。最終的にベルグ

マイスターが記録したベストタイムは、1分47秒896。16番手というグリッドとなった。

Excellence Porsche Team KTRは決勝には自信をもっていたが、午後0時13分からのウォームアップ走行でふたたびトラブルが襲いかかる。走れないことはないが、ミスファイアの症状が出ていたのだ。Excellence Porscheがフルに性能を出せなければ、目指す上位フィニッシュは難しい。武田敏明監督は急遽、グリッド上でエンジンのセンサー交換を決断。その甲斐あって、午後1時30分からのフォーメーションラップに、Excellence Porscheは無事に出走することができた。スタートドライバーは前日同様山野直也が務めた。

山野はオープニングラップを16番手で終えるが、翌周には#5 86MCにかわされひとつポジションを落とすが、前にずっと食らいついていく。狙いは前日同様、他車がグリップダウンしていくなかで、高いペースを保ち続けることだ。

予想どおり、ライバルたちは中盤の速い段階から続々とピットに向かっていく。Excellence Porscheはクリアな状態で30周をきっちり走りきった山野はExcellence Porscheをピットに戻し、完調ではないものの、点滴により体調を戻したベルグマイスターに交代する。第3戦でもフレッシュタイヤで素晴らしい追い上げをみせてくれただけに、今回もタイヤ4本交換を実施し、Excellence Porscheを送り出した。

ベルグマイスターは期待に応えるかのように、すぐに前にいた#61 BRZをかかずと、第3戦のウイナーである#21 アウディの背後に迫る。2台はライバルたちとは明らかにペースが異なり、#18 86 MCや#26 アウディらをオーバーテイクしながら、ポジションを上げていく。ただ#21 アウディはさすがの実力で、簡単に抜くことはできない。また、近づきすぎるとブレーキが熱を溜めてしまい、ベルグマイスターは冷却のために距離をおかざるを得なかった。

そうしているうちに、終盤#4 メルセデスにかわされた#3 GT-Rが2台の前に現れる。#21 アウディはこれをかわずが、ベルグマイスターもそれに続き、レースも残りわずかの48周目、90度コーナーでズバリとインへ。訪れたゲストたちも狂喜乱舞の活躍で、5位でチェッカーを受けてみせた。

これでExcellence Porscheは第6戦鈴鹿以来、4戦連続となるポイント獲得。山野は合計30ポイントを獲得しランキング10位に。ベルグマイスターは25ポイントで、13位でシリーズを終えた。チームランキングは10位となった。

今回の第8戦もてぎは、全車がハンデウエイトなしの“ガチンコ勝負”だった。そして、それを裏付けるかのように、上位はいずれもGT300クラスのランキング上位のメンバーとなった。Excellence Porsche Team KTRはポルシェ911 GT3 Rが最高のマシンの1台であることを証明し、長い2016年シーズンの幕を下ろした。

Quote.



Naoya Yamano A Driver

レースでは序盤、タイヤの温まりが速いマシンに前にいかれましたが、展開は前日同様になると思っていたので、ずっとガマンしていきました。その甲斐もあって、残り15周くらいからは前日のタイヤのことも覚えていたので、様子を見ながらプッシュできたと思います。後半はヨルグが前日同様やってくれましたね。2年間の最後でポルシェの実力を出すことができて良かったです。

Jörg Bergmeister B Driver

体調はなんとか良くなったよ。ドライブしているときはどうにかなるしね。予選ではタイヤの内圧が上がってしまい、思ったようには走れなかった。決勝ではチームが最小の周回数になるよう配慮してくれて、思いきり戦うことができた。いくつかいいファイトができて、今年2番目のリザルトを残せたので、いいレースだったと思うよ。チームは1年通じていい成長を遂げることができたね。



Tadashi Fujita Team Principal

前日の第3戦と同じような展開になりましたね。素晴らしいレースだったと思います。2日間ともに良いレースをみせてもらって嬉しいです。今シーズンは開幕からもう少しいい戦いをできていれば、シーズンでもいい位置につけていられたとは思いますが、仕方ないですね。最後のラウンドでこうして成績を収められたのでホッとしています。1年間応援ありがとうございました。

Toshiaki Takeda Team Director

路面温度によるとは思いますが、予選ではハードめのタイヤがマッチしていませんでした。そのなかで具合が悪かったヨルグ選手ががんばってくれたと思います。ヨルグ選手の体調もあり、決勝は作戦もあまり選べなかったのですが、最初のトラフィックに引っかからなければもっと上にいったかもしれません。でも、最後にまた結果を残せて良かったです。ドライバーたちに感謝です。



www.porsche.ktouch.jp

 fb.me/porsche911gt300

Porsche Center Aoyama Porsche Center Meguro Porsche Center Ginza
Setagaya Pre-Owned Car Center Koishikawa Pre-Owned Car Center